

サビエル生誕五百年

巡礼の道

179

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

誰もが弱者

最近では体にハンディ
キャップを負っていて
も旅がしやすくなった
ように思う。障害者用
トイレの普及、道路な
ど

ど段差の解消、エレベ
ーターなどである。
飛行機での旅も事前
に旅行社に申し込んで
おけば、空港で車いす

を用意してくれ、搭乗
の際も最初に搭乗口ま
で誘導してくれる。

今回、妻の介護者と
いうことで、生まれて
初めて機内に一番乗り
させてもらった。
人は老いる。老いれ

人間を大切にする社会
だ。こんなことを言う
ようになったのも妻が
病気で左半身が不自由
になったからかもしれ
ない。

昔は個人の人權など
はほとんどなく、弱者
は切り捨てられた。

しかし、今から二千
年前に書かれた新約聖
書のイエス・キリスト
の言動は常に体の不自
由な人や女性を含む社
会的弱者に目が向けら
れている。当時は男中
心社会、またユダヤ教
に流れる選民思想は自
分たちだけが神から選
ばれた民と信じる。

しかしユダヤ人であ
り、ユダヤ教徒だった
イエスは弱者や異邦人
にも目を注ぐ。当時の
ユダヤ社会では革命的
言動だったのだろう、
十字架上で殺された。

その復活を信じるか
否かは別として、聖書
に出てくる弱者を救う
奇跡物語は現代的に読
めば奇跡というよりも
困難な状況下にあつて
も希望を失わず前向き

に生きることの大切さ
を示唆するものと理解
すべきと思う。

さて、前向きに挑戦
するとはいえ、ツエな
しでは外を歩けない妻
を遺跡めぐりという最
も不向きな旅に連れて
行くと決めたことに若
干の後悔があつた。

いくらアンコール遺
跡を見せてやりたいと
いう気持ちからとはい
えやや衝動的だった。

手押し車を持参して
初めての旅。幸い使用
しにくい時はカンボジ
ア人のアシスタントガ
イドが妻に寄り添い、
遺跡の高い部分を除い
てはほとんどツアアの
ほかの人たちと同じよ
うに行動できた。

日本に比べて貧しい
カンボジアの福祉事業
は遅れている。が、た
またまかもしれないが
カンボジア人のガイド
で大助かり。福祉は制
度だけの問題ではない
と痛感した。

ガイドだけでなく、
同じバスに乗ったツア
ー参加者も出入り口の
最前列の席をいつも私
たち夫婦のために空け
て下さり「もう少しだ
から頑張りましょう」
と励ましてもらった。

日本人だけではな
い。アンコール・ワッ
トの第一回廊を手押し
車を使っていたら、大
柄な中年の外人女性か
ら「ベリー・ナイス!!
私もその車がほしい」
と笑顔で話しかけてく
れた。他者からの励ま
しやいたわりの言葉が
心にしみた。

福祉は行政がするも
のとか、制度の問題と
思いがちだが、弱者と
の共生は誰にでもでき
る気配り、励まし、い
たわりの心の中にある
と感じさせられた旅で
あつた。それは健常者
と想っている他者との
交わりも同様だ。
(元山口放送取締役ラ
ジオ局長)



2009.11.04

支えてくれた現地ガイド

助けられた手押し車

2009.11.04

